

I 実践

1 本校の人権教育の目標

人権教育という広い視野をもち、豊かな心情と正しい理解や判断力を養い、差別や偏見をもたない生徒を育成する。

2 実践内容

(1)「思いやりの木」の実施

季節に合わせたイラストの形に切り抜いた画用紙に生徒が見つけた他の生徒の良い行いを書き、教室内に掲示する。互いの良い点を認め合うことで良さを伝え合う活動を通して、他者理解の深化を図っていく。

(2)「心の賞賛状」の実施

「アラ探しよりタネ探し」をコンセプトに教師が生徒の良いところを見つけ、そのたびごとに表彰を行う。賞賛されることを通しての自己有用感の向上と他者のために行動しようという意識を育むように努めている。

(3) いじめストップフォーラムの実施

人権の課題と深く関係のある「いじめ」に焦点を当て、学校全体でいじめについて考え、意見を深め合う集会を行った。また、各クラスや各学年でいじめ防止に関するスローガンの考案を行うことを通していじめについて考え、議論する機会を作った。

(4) 教職員の人権意識を高めるための校内研修の実施

毎週の週案の中に人権コラムを掲載し、人権教育に関する研修を行う機会を設けた。そして、人権教育に対する意識を確認するチェックリストや「人権教育実践事例集」などを活用して、教職員の人権意識の深化を図っている。また、職員研修の中では、人権教育指導方法についても工夫が図られるように教職員間の意見交換を行う場の設定を行っている。

(5) 人権作文コンテストへの参加

作文を書かせる目的や意図、人権の必要性を指導した上で、人権について自分で考えることや、それを作文としてまとめる時間を設けることで人権への理解を深めることができるように取り組んだ。

(6) 1年生による人権教室の実施

日常生活における、「いじめ」という行為の中で、「言葉」とその意味の重さや「命の大切さ」に気付き、自分たちに何ができるのかを考えさせる機会を設けた。

(7) あいさつ運動の実施

部活動ごとに校内での朝のあいさつ運動を実施し、自らあいさつのできる生徒の育成に努めている。また、11月には生徒会本部が中心となり小木津駅でのあいさつ運動を行った。

【「心の賞賛状」授与の様子】



【あいさつ運動の様子】



3 成果

「思いやりの木」や「心の賞賛状」の活動を通して、生徒同士が率先して他者の良いところを見つけ、互いに認め合おうという雰囲気が見られてきた。また、その中で、自分が他者から認められているという経験ができ、生徒の自己有用感を高めることにもつながっていると考えられる。そして今年度は生徒だけでなく教職員の人権に関する意識を高めていくことにも重点を置いたことで、教職員が人権教育や人権問題について考える時間を増やすことができた。

II 今後の課題

今年度は生徒・教員を含めた学校全体で人権教育に関する新たな取り組みを行った。その結果、生徒の人権に関する意識の高まりが見られ、学校の雰囲気もより良くなってきているように感じる。今後はこれらの新たな取り組みを継続していき、精選していくことで更に人権意識を高め、深化していきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

【思いやりの木（各教室掲示）】



【いじめ防止のスローガン】

